飯田高校同窓会報

第35号
発行人
長野県飯田高等学校同窓会長
長坂好忠
編集発行人
平澤秀明
印刷所
㈱南信州新聞社

平成七年度定期総会

全議案、原案通り承認

飯田高校同窓会は七月十六日、飯田市錦町のシルクホテルで、平成七年度総会を開いた。総会に関係する諸議案は原案通り可決し、役員改選では全員留任と決まった。

総会で長坂会長は「本館建設に関わる同窓生の寄付も順調に集まっており、すでに県下屈指の四十センチ天体望遠鏡や、同窓生滝沢具幸氏による大陶壁画も発注し、寄贈できるようになった。今世紀末には独立百周年になり、同窓会も母校の施設拡充や発展のために、大きく寄与している」と挨拶。

山崎志朗学校長は「本館の工事も順調に進んでおり、来年二月上旬には竣工する予定だ。何日かは分からないが、現三年生にも新校舎での学習を体験させてやりたい。今春三月の進路状況は東大・京大を初めとして二百九十六人が進学した。伝統ある校歌の内容に相応しい校風に感激している。母校の発展は同窓会の活躍と大きな相関関係にある」と挨拶。

恒例の記念講演は北大助教授の中田徹博士（高6）による「古くて新しいカイコ―シルクロードから分子生物学まで」をスライドを交えながら聞いた。

当日再任された役員の皆さんは次のとおり。

▽会長＝長坂好忠（中41）▽副会長＝外松淳（中39）三浦宏（中40）高安健之（中43）横田盛（高3）▽監事＝大田中一郎（中41）酒井寛（中47）▽事務局長＝宮下洌（高3）▽顧問＝前島忠夫（中17）林緑（中27）松下逸雄（中37）北村純（中44）中島衛（高6）山崎志朗（高7）木下俊佐（高10）田中秀典（高11）吉田博美（高20）

総会で挨拶する長坂会長

ご挨拶

同窓会長　長坂　好忠

平成七年度会報発行に当たり、御挨拶申し上げます。戦後五十年の節目の年、感慨無量なるものがあります。未だ内外とも激動し、政治も経済も混迷を続けております。

そんな中、地元は固より全国、津々浦々政官財界はじめ、所有分野に渉り、その立場で力量を発揮、御健勝にて御活躍され、又各回同期生の集い、三十一支部等が各々個性溢れるユニークな活動をし、本会事業推進の為、御協力下さる会員諸兄に衷心より感謝と敬意を捧げます。

さて、過日の総会にて会長に再選させていただきました。浅学非才、微力ではありますが、諸兄の御支援をお願いし、一生懸命に責を全う致す所存でありますので、宜しくお願い致します。平成七年三月には卒業生も二二、五九一名（物故者含む）、在校生一、一六〇名、会員二三、七五一名となります。会報の発送、同期生会、支部総会等により、把握できる現存者は約一七、三〇〇名位で、不明者約六〇〇〇名となります。より会員の所在の明確を期し事務のOA化を進めまして、名簿編集委員会を構成し名簿発行に取り組むことに致しました。会員の考え方も多様化し、老壮青と年代により価値観も相違し、会の運営も難しく、叱声あり、反面激励して下さる方々も多く、母校や同窓会へよせる熱い想いが犇々と感じられます。改築事業に関わる募金も多くの方々の理解、善意により、大幅に目標を突破したのも、その証左であると御協力に感謝します。

建築工事のほうも着々進み、来春の卒業生が一日でも多く新校舎で勉強出来るよう、考えております。竣工の式典は平成八年秋を予定しており、よりよき教育環境が充実し、後輩諸君が次代を担うに相応しい人間形成に資するものと期待し、嬉しく思います。

悲しいことですが、お骨折り頂いた後藤武巳事務局長が急逝されたので、後任として宮下洌事務局長を迎え、事務の停滞齟齬のなき様、頑張っております。

明治三十三年独立した母校も、今世紀末には百周年を迎えます。歴史と伝統ある母校、同窓会発展の為に特段の御支援、御協力をお願いすると共に会員諸兄の御健勝と更なるご発展を願い挨拶と致します。

古くて新しいカイコ

シルクロードから分子生物学まで

北海道大学助教授　中田　徹

はじめに

私は昭和二十九年（高6）に高校を卒業して、北大に入学したが、飯田の先輩達が新入生の世話をしてくれていた。当時北大勤務の歯科医、伊藤公人氏（中40）、医学部学生であった現会長の小林義康医師（中46）や吉村洋吉医師（高4）等の諸先輩とは、それ以来の長い交際が続いている。昭和四十年代に、この会が母体となって現在の北海道支部に発展し、当時稚内高校勤務であった橋都浩三氏（中41）はじめ多くの知己を得ることになった。

農学部に進学したが、子供の頃からの虫好きでもあり、遺伝学に興味をもった関係で、カイコの研究者の世界に入った。養蚕は当時の飯田地方ではまだ盛んであったし、家でも少々飼っていたが、まさか北大にカイコの研究室があるとは思いもしなかった。これは開拓当時、外貨獲得のため、北海道でも養蚕が奨励されたという歴史的な背景によるものである。

カイコの起源

人類は古くからカイコを飼って繭をとり、絹を繊維として利用してきた。遺跡資料の研究から、その原産地は中国の揚子江沿岸とみられている。台北の故宮博物館には、世界最古の繭が展示されている。このように養蚕には五千年以上の歴史があるが、野性の昆虫から現在のカイコができた過程はまだ明らかではない。

絹織物は、およそ二千五百年以前から中国からヨーロッパに運ばれたが、その交易路は「シルクロード」として有名である。当時のローマでは絹は同量の黄金と交換されたというから、中国は貴重な資源としてカイコの国外持ち出しを厳重に禁止したが、次第に各地に広まり、世界中で飼育されるようになった。

現在の養蚕業

現在カイコは世界の50カ国以上で飼育されており、その主産地はアジアの温帯及び熱帯である。戦前、日本は絹の生産で世界に名を馳せ、一時は貿易収入の半分近くを生糸の輸出に依存した歴史もある。養蚕は「信濃の国」の歌詞にもあるように、とくに本州中部地方で盛んであった。現在絹の需要は依然として増加しているが、日本での生産が減少した分、中国やインドでは増産を奨励している。一方、絹の消費は日本が最も多くなっている。

カイコの利用について

カイコには意外な用途が開発されている。医薬・医療関係では縫合糸、コンタクトレンズ、人工皮膚、アキレス腱等の代用など、また床ずれ、湿疹の治療や予防に絹の肌着を利用するほか、水虫の治療にも有効である。また、カイコの病原ウイルスを利用して、ガンの特効薬、インターフェロンを蚕の体内で作らせたり、軟化病菌の変異株を用いて、特定の昆虫を選択的に殺す生物農薬が開発されている。化粧品では絹タンパクが紫外線をカットして、しみ、ソバカスの予防に有効であり、クリーム、石鹸などに使われている。食品では、飲料・ゼリー等に利用する研究が行われている。

実験生物としてのカイコ

またカイコは実験生物としても優れており、ショウジョウバエとともに各国の大学・研究所などで多くの突然変異系統が飼育されている。研究の成果は直接我々の生活に利用できるため、分子生物学研究やバイオテクノロジー技術開発などの材料昆虫として注目されている。また、近年人工飼料の開発が行われ、クワ以外の植物を食べる「広食性」突然変異のカイコも作られている。

私の研究室でも遺伝学の研究材料として、一年に三世代の飼育実験を行っている。また、生物学観察や実験のため、札幌では多くの小・中・高校で利用されており、社会教育用の博物館での飼育展示と併せて、本研究所からカイコの提供を続けている。

私はカイコの品種改良のため、統計遺伝学の研究を続けている。その主なテーマは、量遺伝子作用の解明、倍数体の育成と利用、繭型の多変量解析等であるが、天蚕（ヤママユ）の遺伝学的研究も行っている。

今般文部省から海外学術調査が承認されたので、各国の学者による研究チームを作り、その代表者として中国やインドでカイコの起源とその遺伝的分化や進化の過程を調査中である。

クワについて

クワは北海道では山野に広く自生しており、開拓時代の養蚕に使われた。日本では、各地域の気候に適応した多くのクワ品種が育成されている。繁殖は容易で、実生・挿木・取り木・接木などで桑苗の大量生産が可能である。また桑の材木は、茶ダンス・碁器・箸など工芸材料として用いられるほか、実は食用になり、長野県内でも桑のジャムや果実酒が製造、販売されており、台湾では食用目的の新品種の育成も行われている。

絹について

従来日本では、絹織維を生糸や紬として織物を作り、主に着物として利用されてきたが、近年洋装品や肌着としての需要が開拓されている。絹は肌ざわりが良く、保湿性、吸湿性、放湿性にすぐれ、その上皮膚疾患を防ぐという健康上の効用もある。近頃、化学繊維の回りに絹をコーティングした、ハイブリットシルクが開発されて、値段も安くなり、丈夫で扱い易い絹製品も多くなったので、これらの衣料の利用をおすすめしたい。

外国製品は安価で求め易いが、品質が劣るため問題があり、いわば昨年の米不足の時の外国米と同じ問題が、絹の世界でもあるといってよい。

日本では、加工業の発展と対照的に、衣食住の素材生産に係わる農林水産業、鉱山業等はきびしい時代を迎えているが、ある程度の国内生産を確保することが必要であり、その上で外国で生産拠点をもつのが望ましい、JICAや私達が開発途上国に対して行っている研究面での支援も、以上の観点から必要と思われる。

講演をする中田助教授

校歌・応援歌のCD製作すすむ

かねてから会員の皆さんから、母校の校歌、応援歌のテープがほしい、との要望が出されていたが、このたび同窓会では、「飯田高校校歌、応援歌」のCDを作成することになった。このほど作成委員会を結成し、飯田高校OB合唱団「高松」の協力を得て、近く録音に着手する。内容は中学時代の校歌、現在の校歌、応援歌数曲ほか。平成八年七月の完成を目ざしている。よいものができて、多くの会員に活用されることが期待される。

自由と規律

今こそ校歌の精神に甦れ

学校長　山崎　志朗

同窓会の皆様には、日ごろ本校の教育環境の整備充実に対しまして、物心両面にわたって多大のご支援をいただき、心から厚くお礼申し上げます。

今年度の人事異動で木下前校長先生の後任として、飯田風越高等学校から赴任しました。出身地は鼎で本校を卒業して、今年で四十年（高七回）となります。現在は、南信濃村に居を構えております。教員の振り出しは松本美須ケ丘で、その後飯山北に勤め、飯田風越に参りました。ここに十五年間勤めた後、阿南に六年間お世話になり、昭和六十一年県教育委員会事務局に異動しました。ここでの三年間は、教育現場では体得できない教育行政の厳しい一面を学ぶことができました。その後、飯山南に転勤し、校舎全面改築移転事業とスキーを中心とした体育科の新設事業に取り組みました。その後再び、阿南・飯田風越に勤務し、この度はじめて母校に着任した次第であります。

間もなく、独立百周年記念という歴史的な節目を迎えようとしている、伝統校での責務の重大さをいたく痛感しているところであります。微力ではありますが、今までの体験を踏まえながら、本校がかかえている諸課題に誠心誠意取り組み、地域の負託に答えるべき、最大限の努力を尽くしたいと考えております。皆様のご助言などを頂ければ、ありがたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

本校着任早々の入学式における合唱班の校歌演奏には、熱き感動を覚えました。「赤石山は巍巍として我が南信の骨を成し……」厳粛な雰囲気のなかで、久しぶりに聴く校歌に、多感な青春の足跡に思いを馳せるとともに、改めて本校教育の原点を、まざまざと教えられた思いであります。現在、生徒を取り巻く社会環境は、決して好ましいものではありません。こうした世の風潮と戦う、心身ともに逞しい生徒に育てていくことが、教育の使命であると確信しております。本校には長い伝統のなかで、構築されてきた自由闊達な素晴らしい校風があります。真の自由というものは、規律ある生活態度のなかに存在することを、生徒に強く認識させる必要があると考えております。生徒は校歌に限りなく愛着を覚えております。自治会行事などに、力強く歌われている校歌を聴くにつけ、今こそ生徒一人ひとりが、校歌に詠まれる精神を良く吟味し自覚するなかで、それを具現化していく姿勢を堅持して欲しいものと痛感している次第であります。

念願でありました本館改築工事の進捗状況でありますが、十二月末に完成し、一月に竣工検査をうけ、二月には供用開始の予定であります。この事業につきましては、格別のご配慮を頂きまして、深謝しているところであります。今後、教育環境の整備に鋭意努めて参りたいと考えております。

終わりになりましたが同窓会の益々のご隆盛と、皆様のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げ、遅くなりましたが着任のご挨拶といたします。

退任挨拶

前飯田高等学校校長　木下　俊佐

平成四年四月、飯田高校に赴任を命ぜられ、本年三月までの三年間、その任にあらずと思いつつも関係各位のご理解とご協力をたよりに、過ごさせていただき、大変お世話になりました。

長坂同窓会長を初めとする同窓会員の皆様方には一方ならぬご支援をいただき、この紙面をお借りして心より感謝申し上げます。東京、関西、中京支部、地元の各支部、さらには各同期の同窓会にお招きを受け、温かい励ましのお言葉をいただきました。母校に思いをはせ懐かしみ、語り合う皆様方のお姿が今も脳裏に焼きついております。

飯田高校は私にとって、独立以来九十有余年の伝統を誇る母校であり、有能な歴代校長先生の後事を担うのはあまりにも非力で心もとない毎日でした。事件後の生徒指導、学力問題にかかわる進路指導、本館改築など同時進行で解決しなければならない課題が目の前にありました。いずれも課題解決とはいかず、後を引き継いでいただいた山崎新校長にお願いすることになり、心苦しく思っているところです。

さて、私は赴任直後から「温故知新」と言う言葉を度々使い、「飯田高校八十年史」から先輩方の残した足跡、言葉を引用し、挨拶や講話をしました。大きな時代の変化の中にあって、先行きが不透明な時こそ、過去のことを調べ、現在に役立つ何かを見つけ、道しるべにしようとしたからでした。また、後輩の生徒たちにも、同じ校舎で学んだ同窓生の栄光と挫折を学び、現在そして将来の生活の糧にしてほしかったからです。

明治、大正、昭和、平成と母校の歴史は日本の近代、現代史と軌を一にしておりますし、時代の波をものともせずに立ち向かった先輩、心ならずも翻弄された先輩に学ぶことが世間に注視されている生徒にとって大事ではないかと考えました。歴史を紐解けば、「歴史は繰り返す」という言葉が身にしみてわかります。生徒の逸脱、学力低下などはいつの時代にもありました。だからといって、その事を当たり前のこととせず時代の流れのなかで、教訓を得て、時代に処することが必要でないかと思われます。飯田高校の校史のなかで私が学んだことは、「角を矯めて牛を殺すな」ということでした。今、学校に世間から厳しい目が向けられております。期待の裏返しかと思いますが、事にあまりに拘泥して、生徒も教師もせせこましく卑屈になってしまっているのではないでしょうか。その点飯田高校に関係する人々は、人間の大きさ、幅の広さを感じさせられる方々が沢山いました。様々な教育課題を解決しようとする中でこの事を常に思いつつ、ありがたく思っていました。

新校舎建設の槌音とともに母校を去りましたが、建設に至るまでの先生方の熱意、実行委員会の同窓会、ＰＴＡの役員の献身的なご尽力には、本当に頭がさがる思いでいました。

最後に、会員の皆様方の今後益々のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げます。

六年度一般会計決算案
七年度一般会計決算書

平成六年度一般会計収支決算書（案）

収入合計額　16,097,207円
支出合計額　9,888,935円
差引残高　6.208,272円

【収入の部】

科目	本年度予算額	本年度決算額	増・減	備考
繰越金	4,727,215	4,727,215	0	
入会金	598,500	598,500	0	
維持会費	5,500,000	8,436,600	2,936,600	
在校生維持会費	1,995,000	1,995,000	0	
特別会計戻入れ	300,000	0	300,000	
雑収入	300,000	339,892	39,892	
合計	13,420,715	16,097,207	2,676,492	

【支出の部】

科目	本年度予算額	本年度決算額	増・減	備考
(総務費)	(4,640,000)	(3,678,027)	(△961,973)	
人件費	2,400,000	2,087,150	△312,850	
事務費	300,000	253,922	△46,078	
慶弔費	100,000	49,000	△51,000	
総会費	550,000	434,728	△115,272	
諸役員会費	160,000	66,330	△93,670	
通信費	50,000	16,270	△33,730	
名簿発送費	50,000	1,800	△48,200	
印刷費	500,000	280,572	△219,428	
旅費交通費	300,000	290,153	△9,847	
振替手数料	180,000	155,130	△24,870	
雑費	50,000	42,972	△7,028	
(事業費)	(3,200,000)	(2,084,318)	(△1,115,682)	
支部補助費	200,000	220,000	20,000	
会報発行費	2,000,000	1,339,318	△660,682	
諸会合会費	200,000	130,000	△70,000	
ＯＡ化諸費	800,000	395,000	△405,000	
(クラブ助成費)	(1,995,000)	(1,995,000)	(0)	
(特別会計繰入)	(2,000,000)	(2,000,000)	(0)	
(予備費)	(1,585,715)	(131,590)	(1,454,125)	
合計	13,420,715	9,888,935	3,531,780	

平成七年度一般会計収支予算書

【収入の部】

科目	本年度予算額	前年度予算額	増・減	備考
繰越金	6,208,272	4,727,215	1,481,057	
入会金	540,000	598,500	△ 58,500	新入生360名
維持会費	5,500,000	5,500,000	0	
在校生維持会費	1,800,000	1,995,000	△ 195,000	新入生360名
特別会計繰入	0	300,000	△ 300,000	
雑収入	300,000	300,000	0	
合計	14,348,272	13,420,715	△ 927,557	

【支出の部】

科目	本年度予算額	前年度予算額	増・減	備考
(総務費)	(5,040,000)	(4,640,000)	(400,000)	
人件費	2,800,000	2,400,000	400,000	
事務費	300,000	300,000	0	
慶弔費	100,000	100,000	0	
総会費	550,000	550,000	0	
役員会費	160,000	160,000	0	
通信費	50,000	50,000	0	
名簿発送費	0	50,000	△50,000	事務費へ
印刷費	500,000	500,000	0	
旅費交通費	320,000	300,000	20,000	
振替手数料	180,000	180,000	0	
雑費	80,000	50,000	30,000	
(事業費)	(3,290,000)	(3,200,000)	(△90,000)	
支部補助費	290,000	200,000	90,000	
会報発行費	2,000,000	2,000,000	0	
諸会合会費	200,000	200,000	0	
ＯＡ化諸費	800,000	800,000	0	
(クラブ助成費)	(1,800,000)	(1,995,000)	(195,000)	
(特別会計繰入)	(2,000,000)	(2,000,000)	( )	
(予備費)	(2,218,272)	(1,585,715)	(632,557)	
合計	14,348,272	13,420,715	927,557	

①予算に定める項の流用について、会長の専決処分を認める。
②予算の補正については、決算の承認をもってこれに代えるものとする。

会員動静

平成七年度十月二十五日現在の同窓会員数は次のとおりです。

- 会員総数（中1回～高50回）23,755名
- 把握会員数　約17,300名
- 終身会員数　479名

H7.10.25現在

わが学び舎／百年の変遷

最初の校舎はお寺 本堂区切り教室に

下伊那中学時代

飯田中学の前身、下伊那中学校は明治十五年（一八八二）、飯田町のお寺・永昌院の中に開かれた。

「もちろん、仮用の事とて本堂を区画して教室及職員室に充（あ）て、

（庫裡）に泊まり、生徒控所は畳敷で…（？）」と記録にある。

翌年には校舎移転の議が起きる。

「明治十六年には入学を乞うもの七十余名の多きに達した。そして永昌院を使用しているが狭窄（きょうさく）で授業上、不都合であるのみでなく生徒の健康上にも害があるので中学校を新築したい、それに対して五千二百六十二円七十銭の経費を支出してほしい、しからば百三十名位の生徒を収容することができるであろうから」（沿革）。

これに対して、下伊那郡町村連合会が提案した校舎案は、①上下伊那で合議して、上下伊那中学校を作ってはどうか②借家を探し、移転してはどうか③新築—の大きく分けて三つ。

議論の結果、現在は不況の中であるを理由に、新築は次の年に延期。別のお寺の専照寺を借りることで決定した。

—飯田支校時代—

明治十七年の下伊那郡町村連合会の予算案に下伊那中学校建築費二千三百八十五円二十四銭五厘が掲載され、可決されている。これが飯田支校の校舎となった。

内訳は、千七百円六十九銭が教場及び寄宿舎新築費。教場は、西洋風瓦屋二階造りで間口十四間奥行き七間。一方の寄宿舎は日本風の瓦屋二階造りで、間口十間、奥行き三間、百二十八坪。

新築雑費が百三十円。内訳は旧校舎引き払い費、開校費、樹木植え（？）費となっている。二百六十一円六十二銭五厘が会議費。六十八円六十二銭が教育会費といった配分だった。

県尋常中飯田支校時代

当時の校舎は二棟で室数十四、寄宿舎二棟で室数八。そのほか体操場・生徒控室・宿直室・小使室・休室・食堂など。建坪は三百三十一坪だった。

この建物は、濃尾地震の被害にあい、その後、多少の改善があった。教室は暗く、狭かった。教室のうち南方から採光があるのは一室のみ。ほかに東方西方もしくは北方から採光できるのみ。周囲の建築のため、光線が妨害され、雨天の時は午後四時には灯火を要すると、三十二年度には報告されている。

独立、飯田中学に

明治三十三年（一九〇〇）四月一日、長野県飯田中学校として、松本中学から独立した。この年、県内では飯田中学と上田中学が独立し、県下の中学校は松本、長野と合わせて四校になった。

独立当時の校舎は、明治十七年に建てられた郡立中学校時代の校舎や、二十六年以降の飯田支校時代に建設された校舎だった。

古く、狭く、採光も不十分。しかし生徒は独立中学校の意気に燃えて、勉学にいそしんだ。

独立と同時に校舎、寄宿舎、講堂などの建築および校地の拡張、運動場の新設、拡張などが最も重要な懸案となった。

飯田中学・高校ミニ校史

明治一五年（一八八二） 下伊那中学校開校（永昌院）。翌年、専照寺に移転。
一七年 長野県中学校飯田支校に。翌年、支校開校式。
二六年 県尋常中学校飯田支校開校。
三二年 県松本中学校支校に。
三三年（一九〇〇） 飯田中学校独立の告示が出る。四月十五日、独立開校式。以後、この日が独立記念日。
大正一四年（一九二五） 高松新校舎へ、職員・生徒一同、御真影を奉戴して入校式。
昭和一五年（一九四〇） 独立四十周年記念式、文化講演・学芸大会、展覧会。
二三年 新制高校発足。飯田東高等学校入学式。
二四年 飯田高松高等学校に改称。
二五年 飯田高校に改称。
三一年 天体観測ドーム完成。
三五年 独立六十周年記念式典。行事を二日間にわたって挙行。
四七年 高松祭を機に制服自由化始まる。
五四年 強歩大会夜間実施は、さまざまな事情により来年度限りと決定。生徒会も了承。
五五年（一九八〇） 独立八十周年記念式典・祝賀会。記念事業として郷土出身の彫刻家・城田孝一郎作の野外ブロンズ像「青雲」建立。「飯田中学校・飯田高等学校校史」刊行。

新校舎の正面玄関を飾る日本画家・滝沢具幸さん（高12回）の壁画「アラベスク」

「独立」と同時に着手 10年かけて新校舎

県は三十三年度から五カ年計画で工事を計画。しかし三十七、八年度の日清戦争で工事が一時中断。完成したのは明治四十三年と、なんと十年間の歳月を費やした。この間、支校時代の旧校舎は順次、取り壊され、すべて一新された。

独立中学校にふさわしい校舎、校庭、校地の新築整備拡張については、郡民をあげた積極的な運動、支援があった。

校舎・運動場などの竣工年。▽校舎本館（木造二階建て）明治32▽校舎本館（同）24▽寄宿舎（同）同▽食堂・浴室（木造平屋建て）35▽生徒控室（同）同▽雨天体操場（同）同▽正門・通用門・学校周囲の柵35▽理化室（同）36▽博物室（同）同▽講堂（同）同▽図画教室42▽寄宿舎生徒応接室・湯呑所増築42▽武術室43▽城下運動場34。

独立に備え、普通教室を主にした本校舎が明治三十二年、建築されていた。しかし開校と同時に生徒および学級数の増加のため、ようやく教室をやりくりする有りさまだった。

三十四年度には講堂の一部を区切って、五年・三年の普通教室に当てたため、講堂が狭くなり、儀式などで全学年が集合する場所は、体操場がすべてとなる。

また、書籍や器械、標本などは下伊那中学校以来のもので、数はやや多かったが、十年あるいは十数年前に購入したもので、使用に耐えないものが多かった。

五間半に三十七間の本校舎ができたのは三十四年度末。教室不足は少し解消される。この本校舎の階下には校長室、教員室、事務室などがあった。

先に建築されていた本校舎に、新たに増築された本校舎を加え、二棟の本校舎が完成。定員四百人の普通教室は、なんとか間に合うようになった。

急ピッチで建築が進む待望の新校舎（平成7年10月）

当時は最先端の鉄筋 「旧校舎」高松の地に

—鉄筋の新校舎—

大正十年（一九二一）十一月、上郷村高松原に飯田中学校の移転が内定。ただちに指定地の測量に着手し、十一年度から新校舎の建設工事に取りかかった。

落成式は十五年十月十七日。当時の県下中学校のなかで最先端を行く施設として、関係者が自負するものだった。

新校舎落成祝賀式を飾るため、本館の二階・三階を会場に展覧会が開かれた。飯田中学の歴史上、空前絶後といわれるほどの大規模。

内容で特筆されるのは、美術関係。郷土美術家の作品を網らし、加えて帝展審査員や美術学校からの作品も寄せられる。生徒の作品はもちろん、県下各中学から多数の参加作品があったほか、一般からの盆栽や生け花なども展示された。

工事報告によると、敷地は一万七百三十九坪。本館は鉄筋三階建てで、建坪三万九千四百六十九坪、のべ十三万千九百四十九坪、工事費は十七万三千七百三十一円六十八銭、一坪当たりの工事費は百六十七円十三銭だった。

そのほか、鉄剣道場、奉安殿、寄宿舎（木造二回建て）などがあった。昭和五年末、当初計画した施設がようやく完備した。

支部だより
北から南から

はるばる遠路のゲストを招いて
北海道支部

平成六年十月一日、札幌市の後楽園ホテルで例会を開きました。今回ははるばる飯田から二名のゲスト（三浦宏先生、長坂好忠会長）の特別参加がありました。

長坂会長の同窓会の会務報告の後、三浦先生から「伊那谷の現況」という講演があり、歴史地理がご専門の立場から郷土を紹介され、感銘深く拝聴しました。今回の三浦先生の派遣を快諾され、本部同窓会長として初めて北海道同窓会に出席された長坂会長、スライドを交えて郷里の話題を提供された三浦先生に厚くお礼申し上げます。

当日、ゲストの両氏と出席者全員から多額のご寄付をいただきました。

また、欠席の沢田・大沼両氏からも送金いただきました。お礼申し上げます。

席上、長坂会長から要請のあった校舎改築に関するカンパについては、北海道同窓会として五万円を寄付することとして長坂会長に託しました。

翌日は橋都先生と私が両ゲストを案内して、北大、サッポロビール、北海道開拓の村、開拓記念館等に同行しました。また、夜は伊藤先生に一席設けていただきました。ゲストのお二人には、会からささやかな記念品を差し上げました。皆さんによろしくと礼状が届いています。

（高6　中田　徹）

北海道支部例会

常に同窓生のつながりを
松本支部

平成七年度の総会は六月二十四日、「仙岳」で鈴木峯雄（中29）先輩から堀本学（高40）君まで二十七名の出席があり、開催されました。倉沢副支部長の開会のことば、吉野俊（中43）支部長のあいさつのあと、宮下同窓会事務局長から校舎改築状況と学校・同窓会の近況報告がありました。

毎年行っている会員講演は松岡恒美（中47・信大医学部卒）氏の「高齢者のQOLとプライマリケア」。地域医療医として活躍されている先生は、診療だけでなく、患者の人生に深く係わっていることなどを交えて話され、これからの高齢化社会では、老後は自分の楽しみのために生きる年代であって、文化を楽しみ、地域とのかかわりあいにより、明日に希望を持って生活していくことが健康の秘訣であると結ばれました。

パーティでは酒杯を重ねながらそれぞれの青春と伊那谷に思いを馳せ、応援歌を熱唱、盛会裡に散会しました。

同窓生が常につながりが持てるような支部づくりに皆さんの参加をお願いします。

（中47　金田　敬）

松本支部の総会

大丈夫か伊那谷活断層
丸山支部

あの阪神大震災から一ヵ月、次第に地震のメカニズムが解明されようとしているとき、同じような危険性があると指摘されたのが伊那谷活断層。まさかと思いながらも今回の大震災を見ているだけに、果たして飯田市周辺はどうなのか、誰しも関心の集まるところ。丸山支部はこうした時期での総会でした。

当日（二月十九日）は会員菅沼良夫さん（中40）の「伊那谷の活断層について」と題する卓話をお願いし、詳しく解説していただきました。特に風越山麓一帯の松川や城山、柏原などの地形を例に説明されると、日ごろ見慣れた場所だけに思わず顔を見合わせる。もし、地震が発生すれば山崩れが非常に心配で、特に中央道は活断層に沿っているので寸断され、大きな被害が想定されると指摘されました。

総会は、決算報告・役員改選などいずれも原案どおり承認され、来賓の長坂同窓会長から「寄付金は当初目標を上回る金額となり、皆さんのご協力に感謝する」とのお礼のことばがありました。

議事は三十分で懇親会は二時間。次から次へと徳利が運ばれて同窓生の絆が一段と強まったころ、吉川正五郎さん（中34）の発声で万歳三唱。来年も元気で会おうと肩を叩きあってのお開きでした。

新役員は次のとおり。

支部長＝田中忠（中41）副支部長＝片桐清之（中44）副支部長＝毛利登（中45）幹事長＝坂下幸彦（中47）。

（中47　坂下幸彦）

北海道同窓会総会に参加して
中四十回　三浦　宏

北海道同窓会元会長伊藤公人（中40）さんが、松下逸雄会長当時から、一度北海道へ出てこないかといってくれていましたところ、機熟して平成六年十月一日の総会に、長坂会長と一緒に出席実現の運びとなりました。幹事長の北海道大学農学部教授の中田徹（高6）さんのお骨折りと同窓会当局のご理解の結果です。

松本空港が開港したのでひとっとびと思っていたら、豈はからんや、観光シーズンとあって「お一人様はダメ」と言われ、急遽名古屋に変更し、九月三十日に出発しようとしていたところ、台風と鉢合わせして、十月一日に出かけました。台風一過とあって、佐渡ケ島、男鹿半島、下北半島の美しい全容を俯瞰でき、専門（地理学）柄、実に楽しいものでした。

千歳空港に到着すると、中田徹さんが迎えにきてくださっていて、ほんとうに助かりました。会場の札幌後楽園ホテルの社長も同窓の斉藤綏治（高3）さん。以下二十六名出席されて盛会。産業経済界、病院長などの医歯学関係、電力、裁判官、教育学術界など各界で活躍されている方々多士彩々。北海道は同窓でもっているくらいな感じ。

中田幹事長が司会をつとめられ、小林義雄会長（中46）より歓迎を含めたごあいさつの後、長坂会長から本会の近況・母校本館改築に伴う募金についての話があり、僕からはスライドを交えながら「伊那谷の現況」というテーマで歴史地理学的立場からのお粗末講演。そのあと、出席者一人ひとりからの二分間スピーチ。北辺に活躍されている同窓の皆さんのスピーチは心に沁み、楽しい一夜を共にすることができました。

下原両介（中46）さんは同村の誼みで駆け付けてくれ、昔担任だった新井孝男（高8）君は翌朝ホテルを訪ねてくれ、久闊を叙することができました。

翌日は中田・橋都両先生に、長坂会長ともども広大な北大構内、サッポロビール、北海道開拓の村、開拓記念館などご案内賜り、夜は伊藤公人さんが一席設けてくだされ、秋たけなわの札幌を満喫させていただきました。

終始おせわになった中田徹先生はじめ各位のご厚情に感謝申し上げ、ご報告といたします。

（一九九五・一一・一二）

首都移転の新井ビジョンに感動
伊賀良支部

伊賀良支部（原一郎支部長）の定期総会は恒例により八月十五日午後三時から、北方の小鈴食堂で開き、会員約四十人が出席した。

今牧豊宏副支部長の進行により、清水貞男副支部長の開会、原支部長あいさつ、長坂好忠会長祝辞の後、原支部長が議長となり、平沢秀明幹事長による事業報告、会計報告、木下順一監事の監査報告を承認。役員改選では、伊藤喜明顧問の提案で全員留任となり、平田友敞副支部長の閉会のことばで終わった。

このあと、高十九回卒の新井雄三氏が「伊那谷二十一世紀の課題」として首都移転の新井ビジョンを、ビデオとスライドを交えて熱弁を振るい、大きな感動を与えた。

再任された役員は次のとおり。

支部長＝原一郎、副支部長＝平田友敞、清水貞男、今牧豊宏、幹事長＝平沢秀明、幹事＝伊藤尚、矢沢与平、鈴木信、監事＝木下順一、鈴木藤雄。

（高4　平沢秀明）

講演する新井雄三氏

意気軒昂
宮下洌事務局長迎え
下條支部

六月十日午後三時半より、天竜峡ミヤコグランドホテルにて、十八名出席して総会を開催。本会より来賓として出席された宮下洌事務局長から「開校九十五年、先輩二万二千人、音信ある会員一万八千人、年会費千二百円、終身会員三百二十七人、校舎改築に伴う寄付金も順調にあつまり多謝」ほか、付属施設の詳細説明あり。

同窓生の伊藤喜平下条村長の祝辞では、「教育文化ゾーンあしたむらんど下条のオープンは七月五日。青年の館や図書館の実現で、ゆとりの実感を味わってもらう。なお、信金の研修施設や刈谷市の保養施設も着々進んでいる。長寿社会への対応も……。」等説明あり。

役員改選では中島義司支部長勇退。新支部長熊谷博、副支部長中島重威、幹事吉村広、監事塩沢長雄、飯島勝人、以上選任された。

懇親会に入って意気軒昂、盛会裡に終わった。

（中43　中島重威）

大震災を乗り越えて集う

関西支部

第三十二回関西支部連合会総会を、例年どおり九月十五日に、神戸生田神社会館で開催した。

郷里から長坂同窓会長、山崎飯田高校校長、宮下同窓会事務局長の御臨席を賜わり四十九名による盛会となった。

本年は神戸支部担当による開催であったが、皆様ご存知のとおり一月十七日、悪夢の大震災遭遇で、お住まいが倒壊し、下敷きとなり肋骨二本の完全骨折で入院された田中克人（中47）さんのほか、大勢の会員が家屋の倒壊、一部破損、家財道具の破損等、大小の被害者となった。

（震災の際は、本部および中京支部から御見舞金を頂戴しましたこと、一同にかわりここに厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。）

また、神戸市内の破壊もひどく同窓会の開催もあやぶまれ、中止すべきとの声もあった。時が過ぎ、心の傷も癒え、神戸は力強く復興を進めており、被害と復興の状況を会員の皆様にご検分願う機会とするよう、会場を二つの鳥居と拝殿が倒壊した生田神社（故郷の飯田とゆかりの深い神社＝飯田城主堀石見守が寄贈した白梅で、八丁先まで匂うという。"八丁梅"の茂る）の境内にあり、被害をまぬがれた生田神社会館に白羽の矢を立てた。

当日はちょうど「頑張ろう神戸」を合言葉に春から戦ってきた、プロ野球のオリックスブルーウェーブが優勝に王手をかけており、同じ境内に祝勝会の舞台が設置され、壇上には市民にふるまう祝い酒、四斗樽六ケが積み上げられてVの瞬間を待ち構えている様子が、我が関西支部連合会の総会をともに祝ってくれているかのようであった。

午前十一時過ぎから総会を開催。龍口篤夫（中47）さんの司会により、物故者に黙祷を捧げ、関島神戸支部長の開会のことば、松尾連合会長の挨拶、来賓お三方による郷里の同窓会、母校の近況および校舎の改築進行状況等のご報告を受け、各々がふるさとの自然、そして高松台に立つ鉄筋の学び舎に想いを寄せ、当時の自分たちの行動を懐かしむひとときを持つことができた。

中塚連合幹事長から諸報告を受けた後、田中前神戸幹事長の提案により、連合会長、連合幹事長、神戸支部長、神戸支部幹事長を改選して、吉川京都支部長のご発声による乾杯で懇親会に移った。

最高齢（中25）の池田茂登さんをはじめ、高37回までの四十九名が五ツのテーブルを廻り、酒を汲みかわしながら懇親を深め合う様子には、あの震災の悲惨さはなく、お互いが力強く頑張っている姿そのものであった。

会場のあちこちに談笑があり、大変な盛り上がりを見せる中、会の締めくくりを中塚新連合会長の先導で校歌と信濃の国を高らかに歌い、安東新神戸支部長（中40）の音頭で関西支部連合会万歳を三唱し、重ねて、同窓会長の長坂様のご発声により、関西支部連合会のますますの発展を願って万歳三唱をして有意義な同窓会を閉会し、関島前神戸支部長の用意して下さった郷里の冷酒"喜久水"を各人土産に頂き帰路についた。

（高5　平栗卓爾）

関西支部の皆さん

支部総会を開催

松川支部

松川町在住の現会員二〇三名の総会は、例年の如く八月二十六日、本会長坂会長をお迎えして町公民館で開かれた。支部活動活性化のため、支部会員名簿（部落別・卒業年次別）をもとに本年より部落別幹事の他に年次別幹事を出して、若年層も含めた幹事会を午後二時より開く。事業会計報告、事業計画予算案等が終わる。

総会の中の主な事項を述べると、

▼長坂会長より、母校建築の進捗状況（天体望遠鏡、玄関陶壁画の原画、前庭の設計、募金が予定の額を大幅に上回っている等）、また進学も長野高校並み（東大現四名、国立一〇九名、大学合格率七四・六%、一九六名等）クラブ活動、生徒指導（基本的生活習慣の重視等）のお話を聞き、一同安心、努力に敬意を表す。

▼支部として母校建築に伴う篤志寄付について、町内企業等からも多額の募金がある。飯田高校は地域で大事な学校だといって高額を寄付してくれる企業もあり、母校への信頼と期待の大なるを痛感する。

▼総会講演、町資料館酒井主事より「町の文化財について」発掘を中心に聴く。身近な事柄で質問がつきない程盛会。身近な文化財に学問的満足を得た様子。

▼総会には二、三十代の女子も出席、校歌の指揮は二十代母校応援団長が当たるなど、盛会であった。（中38　宮沢友彦）

「勝利の曲」を歌う

前会長　荒木清行氏　作詞

上伊那南部支部

飯田高校同窓会上伊那南部支部（赤石会）の記念すべき第二十回の総会を、去る六月二十一日、いわた屋料理店において、二十名の参加のもとに盛大に開催しました。

来賓の長坂好忠同窓会長から、校舎改築事業の募金活動につき、赤石会の協力に対して評価をいただき、初期の募金目標額を達成できた旨の報告とお礼が述べられました。

赤石会の生みの親の一人である早田和夫赤石会会長からは、思い出を織り交ぜ、感慨無量のごあいさつがありました。

杯を交わすころとなりますと、吟髪霜白なるお歴々の皆さんもいつしか若さを取り戻し、歳の差を全く意に介せず、談笑の和やかなムード一色となりました。

かつて上伊那郡下には中学校がなかったため、向学心に燃えた宮田村から中川村までの人たちは飯田中学に入学し、寮生活をしたものでした。

赤石会の歩みについては、故北原名田造氏（元駒ヶ根市長）の提唱により、早田和夫氏ら発起人代表のご尽力があって、昭和四十二年二月、駒ヶ根市において創立総会を開き、発足させたものです。校歌に因んで、会の名称を「赤石会」と決定したということです。その後、会の充実と発展をめざして、宮田村以南中川村までの地域に会員の構成範囲を拡げ、現在の会員名簿には百四十名が搭載されるに至りました。

会員資格としては、伊南行政地域内に住まわれている方及び、同地域内の事業所等に勤務されている方としていますので特に四十歳代前の同窓生の積極的な参加をお待ちしています。

会の終りには、校歌斉唱、そして、前赤石会会長荒木清行氏作詞による「勝利の曲」を声高らかに歌い、各々壮健に努めながらの再会を約して散会しました。

（高6　熊谷忠夫）

上伊那南部支部の皆さん

暁峰会の歩み

下久堅支部

私たちの下久堅支部は、平成七年度の総会を九月十日、飯田観光ホテルで行った。今回は母校の本館改築のときでもあり、関心の高まりがあって、今までになく大勢の三十余名の参席に、本会から会長・事務局のご来臨を得て盛会となった。

暁峰会は、大正時代から下久堅地区出身在校生の親睦交流の場として、主に小学校で運動や会合を行っていた。それにつれて昭和二十年代から、中十五回卒、三石栄氏を長として暁峰会ＯＢ会を年一回行ってきた。それが母校に同窓会組織が置かれてから下久堅支部となった訳である。

この支部も、昭和三十年から二、三名が事務局を担当してくれ、代々に受け継がれている。在村、近隣在住同窓生一一〇名が今日賛同され、維持会費も徴収して運営されている。総会は毎年一回開催され、他に必要に応じて会合を持ち、同窓生物故者追悼法要や、ときに文化的なことも行われてきた。又今年は母校改築に伴い、支部として篤志寄付集めにも協力した。

また、暁峰会歌もある。中十三回卒の橋爪和男氏作詞で、昭和八年から在校生が歌い続けていた。緑ヶ丘中に統合以来、今は在校生は歌っていないようだが、支部総会には必ず勝利の曲なども加えて歌い、老いも若きも青春懐古の情に歌って会を閉じることになっている。

この会が、飯田高校同窓会であることの重みと意味をしみじみ反省し、自戒の場の機会になることを期待してやまないのである。

（中33　木下安巳）

下久堅支部の参加者

待たれる三遠南信自動車道

静岡県支部

五月二十一日、静岡県支部の総会を浜松市の名鉄ホテルで開催しました。当日、本会の長坂会長には遠いところをわざわざお運びいただき、県内も東は富士市からご出席いただき、総勢二十九名となりました。

ここ浜松市は「三遠南信自動車道」で行政、経済、そして市民レベルの文化交流が活発となり、ますます故郷が近くなって、話題はもっぱらそのことばかり。道路が早く完成して、なつかしき顔、声、そして四季折々の果物などが期待されるところです。

向暑の候、お体にご慈愛され、母校の発展にお力添えをお願い申し上げます。

七月三十一日

（高14　久保田　省）

静岡県支部の参加者

地元支部として交流を深める
上郷支部

平成七年度上郷支部総会は、九月二日野底山姫宮センターにて開催、会員参加二十五名、本会より長坂会長、宮下事務局長のご臨席を得て、盛会のうちに終了した。

恒例のマレットゴルフ大会のあと、通常議事承認の他、長坂会長から校舎改築記念事業への、募金の目標達成ができたことに感謝の言葉あり、松澤支部長から地区幹事長はじめ、役員並びに会員の協力に謝辞がのべられた。

完成間近の新校舎では、平成八年二月より授業ができる予定とのこと。立派な壁画や最新の天体観測ドームのある校舎のできることを喜ぶと共に、生徒の学習効果を更に期待する声あり。

上郷支部組織強化に幹事長を置く案を承認、新幹事長に吉川晴君（高2）を選出。また女性会員数増加の昨今、役員は今まで男性のみであったが、今回鎌倉多津子さん（高6）と小町谷勝世さん（高12）の二名が地区幹事に選出され、支部発展のために大変よいことと歓迎されました。

学校の地元支部の立場から母校への協力を自覚し、会員の交流を深める総会でした。

（中38　松澤　潤）

耕雲寺住職の講話に感銘
座光寺支部

座光寺支部平成七年度定期総会は、梅花満開の三月四日、座光寺「ふじ松」において開催。当日は地区行事とも重なり、出席者は例年より少なく二十三名であった。

宮沢博人支部長から年一回の総会が、有意義に開催されることと、本校舎等の改築に伴う会員協力お礼及び、前年支部活動の一環として、地区内有力企業・個人に対し役員各位の協力を得、篤志寄付依頼をなし、ほぼ目標に達した旨報告。また本会後藤事務局長が二月末他界の訃報を伝え一同ご冥福を祈る。

議事としては、前年度会計報告の了承を得、役員改選については正副支部長は再選、その他役員は順次高卒に切り換えることを基本にそれぞれ選出。恒例の会員講話は今までと趣を変え、高四回の耕雲寺住職寺沢智孝氏から「心の時代を思う」と題して、衣食飽和、忙しく時を過ごす現代において、人間の本質を見失わないような心掛けについて精神訓話を拝聴。折しも阪神大震災後間もない時期にて尚更会員改めて銘す。

来賓の本会長坂会長から祝辞に併せ、母校や同窓会の現況、改築事業の進捗状況、財源協力等の挨拶があった。

総会に続いての懇親会は、出席最年長の中三十七回、塩沢仁右衛門翁のユーモアを交えた乾杯音頭にて開宴。同郷にあっても日頃の交流とは異なり、若返った同窓の同志として、年齢の差を越え、それぞれ青春を回顧談笑は尽きず、最後は恒例の校歌合唱にて散会。

（中47　棚田芳雄）

阿南支部設立される
阿南支部

下伊那阿南地区では、かねてから有志により、支部設立の準備が進められていたが、この度第三十二番目の支部として誕生。去る十一月十一日(土)、南宮ホテルに於いて、結成総会が開催された。

総会は、本会より長坂会長、山崎学校長を迎え、大下条・富草・新野・和合の各地から参集した会員三十一名の出席により盛大に行われ、会則の決定、役員の選出、予算・事業計画等が順調に可決され、続いて懇親会が行われた。

役員は次の通り。

▽支部長＝伊藤千俊（高3）▽副支部長＝小泉安秀（高4）後藤博幸（高5）宮嶋良光（高10）▽顧問＝旧中学卒業生全員

（高12　佐々木　進）

同年会だより

飯中43回同年会
23人の在京者が集う

昨年四月、卒業五十周年の会を機に母校を訪問、終わって参加者全員による懇親会をと、想い出を新たにした私たちであったが、あの日から早くも一年、またまた在京者による例会を張り切って楽しんだ。

平成七年六月九日、午後六時より九段北所在の「アルカディア市ヶ谷」を会場とし、幹事山根啓作・吉田奉吉両君の司会・進行も巧みに、出席者二十三名「年寄り子供」よろしく雰囲気を満喫し、瞬く間に過ぎた「おたのしみかい」ではあった。

齢七十、正に古希を迎えつつある級友ではあるが、年齢は措き互いに過去に浸りつつも現在に及び、さらに将来を語る諸君の意気は誠に旺んであり、毎回のことながら驚嘆の一語に尽きる。心から「みんな、ますます健やかにな」と希わざるを得ない。校歌、信濃の国、応援歌等を精一杯歌う諸兄との再会を切望する所以である。

（中43　坂本　武）

記念同期会開催
中四十五回

旧制中四十五回生は今年卒後五十周年の大きな節目となることから、是非一泊して語り合おうという念願が実現し、昼神「恵山」に全国の期友四十五名が参加し十月十五日に開催された。当日はバス二台にて正午より先ず母校訪問、曾て教鞭を執った吉村君の案内で既に新校舎の偉容が垣間見える現状に刮目し、続いて一路下條へ。茲は生地熊谷君の解説と案内で史跡の探訪、そして戦時下互に若い汗を流した親田の開墾に往時を偲びつつ、夕刻恵山に到着した。全員の写真撮影後記念総会に移り、長坂同窓会長、山崎母校校長の来賓を仰ぎ、先ず物故者三十三名への黙祷、幹事長小林君の挨拶と経過報告、来賓祝辞等々滞りなく終了、入浴後懇親会へと移行した。何年振りかの顔も揃い、湯火照りと旨酒を汲み交わす交歓の裡に大いにハッスル、やがて全員の校歌合唱。応援歌も人生の応援歌らしい躍動を見せて秋色深まる阿智川畔の夜を満喫したのである。翌日はゴルフのグループ先祖の墓参等々次の再会を約し多彩な五十周年の同期会の幕を閉じた。

（中45富井武彦）

原稿締切り　九月末日

この欄の原稿締切日を毎年九月末日とします。

同窓会事務局長
新任のご挨拶

宮下　洌事務局長

七年二月に急逝された後藤武巳先生の後を受けて、三月二十日からこの仕事を仰せつかった高三回卒の宮下洌でございます。

年度の変わる時期に当たり、不慣れのために、会員の皆様には種々ご不便やご迷惑をおかけいたしましたが、会長さん始め役員、会員の方々に支えられて、何とか仕事も軌道に乗りはじめたところでございます。

新校舎の落成、会員名簿の発行、さらに独立百周年を迎えようとする大切な時に当たり、この責務の重大さを痛感すると共に、全国各地の同窓生各世代を通して、それぞれに母校の発展と同窓会への思いをしっかりと受けとめて、微力ではありますが、最善の努力を致すつもりであります。

終戦の年に入学し、飯田中学・東高校・高松高校と六年間目まぐるしく変遷する時代を過ごさせていただいた私にとって、次第に現れてきた新しい校舎の威容と、窓越しに写る現在の男女生徒の活力に満ちた光景は、誠に感慨深く、また生徒の未来に寄せる思いもひとしおです。

どうぞ、きたんのないご意見とともに、力強いご支援をよろしくお願い申し上げて、新任のご挨拶にかえさせていただきます。

よろしくお願いします
事務局　園田希巳枝

園田希巳枝さん

本年九月より、前任の方のご紹介を受けて、同窓会事務局に勤務することになりました。この三月に飯田市に転任したばかりで、こちらの地域のことや、仕事の上での情報など、まだ知らないことが多いので、さらに理解を深めたいと思っています。

仕事は、今のところ、寄附金の整理と、名簿作成の準備に追われ、コンピューターにかかり切りですが、まだ慣れないこともあり、ご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、がんばってやっていきたいと思いますので、ご指導のほどをよろしくお願い致しま

傘寿記念同級会
飯中三十回

毎年秋開いている同窓会の報告が、締切りの都合で、同窓会報ではちょうど一年くらい遅れるので、二年ほど投稿を休んだ。しかし、やはりその健在ぶり（？）は報告しておくべきだと考え、また続けることにした。

特に平成六年度は全員八十歳を超えたので、傘寿記念として、ちょっと賑やかにした。

平成六年十月四日、市内三宜亭、飯田の代表的美妓を招いた。（彼女たち飯田の芸妓組合の皆さんは、平成七年九月、選ばれて第十六回紅緑会公演で国立劇場の舞台に立った。）

翌五日は、開通した矢筈トンネルを抜け、紅葉映える遠山郷から天竜・阿南などを回った。かつてこの辺りの小中学校で教壇に立った君も何人かいて、往時を偲び、目を赤くするものもいた。

平成七年度はやはり十月、昼神温泉で。

また、毎月第一土曜日に開いている昼食会「一土会」は相変わらず続けている。

（中30　中島君男）

高七回生が40周年
絵画・書道の総合展

高七回卒業生の卒業四十周年記念行事が、十月二十一日、飯田市シルクホテルで開かれた。首都圏から三十数名が貸切りバスで参加するなど、全国から九十余名の同期生が集まり、五人の恩師を囲んで大いに語り、最後に校歌、勝利の曲を声高らかに斉唱した。五年後の卒業四十五周年の再会を約して解散した。

二次会は砂払温泉で。深夜まで痛飲し、翌朝はゴルフ組としらびそ高原行きとに分かれ、南信濃の秋景を楽しんだ。

この記念行事の一つとして、中電ふれあいギャラリーで開かれた第十二回「高七展」に、同期生の「歌人 林安一と奥村晃作」紹介コーナーも設けられ、多くの見学者を集めて好評を博した。

（高7　原田光朗）

高七回生たちの絵

高23回卒25周年
小椋桂講演

高校二十三回卒業生たちの二十五周年記念事業の一環として、シンガーソングライターの小椋桂講演会を平成七年十一月十一日、飯田高校体育館で行った。

伊藤隆祥実行委員長ら二十人の委員たちが同期生に呼びかけて基金を募り、今を時めく人気者の講演、「創造を主役として」を聴いた。当日は在校生とともに、二十三回生たちも百余名が往時を偲びながら感激にひたっていた。（高23池野光政）

学園便り

◎全国大会へ
　陸上班、放送委員会、
　邦楽班、ギター班、将棋班
◎その他の大会へ
　水泳班、柔道班
◎今年度高松祭

北信越大会に出場して

柔道班

僕は今回県大会を勝ち残って、北信越大会に長野県代表として出場することができました。
北信越大会での成績は、一回戦敗退でした。
僕がこの大会に出場してみて得たものは、「悔しさ」です。遠路はるばる石川県まで行き、一試合、たった三分柔道をして終わりました。ただただひたすら悔しくて悔しくてなりませんでした。自分の力のなさを後悔しました。しかし、しばらくすると「来年こそは必ず勝ってやる」という気持ちになりました。本当に得たものはこれだったのです。僕はまだ来年もう一度大会に出れるので今度こそ納得のいく試合をしていこうと思います。
この北信越大会で得ることのできた精神は生涯掛けがえのないものになると思います。だから、いつまでも心にこの気持ちを留めておきます。

（近藤圭三）

北信越出場

水泳班

私の班活動は北信越大会で引退となりました。
半分あきらめていた北信越大会に出場できたのは、私一人の力ではなかったと思います。水泳を始めて十三年目、多くの大会に出場してきた中で今年の高体連ほど緊張した大会はありませんでした。きっとそれは、今年で終わりと思っていたでしょう。あきらめかけていた私の気持ちにやる気を持たせてくれたのは、一緒に苦しい練習に耐えてきた友達でした。友達がいたからこそ果たせた北信越大会出場でした。北信越大会では、納得できる記録は出せなかったけれど、後悔はしていません。高校三年最後の最後で、緊張し、感動し、友達の偉大さが分かったからです。「水泳をやっていて良かった」と心からそう思えるのは、一生懸命に取り組めたからだと思っています。

（山田絢子）

陸上インターハイ出場 四〇〇・八〇〇mで

私たち陸上班は各自すばらしい成績を修めてきました。南信大会では、市瀬君が四百、八百と二冠し、リレーも上位入賞しました。県大会でも、市瀬君が二冠、リレー入賞と、北信越に十二人も出場することができました。更に市瀬君が、四百mと八百mでI・Hの切符を手にするなど、毎年優秀な成績を修める伝統を守ることができました。……ここで筆者は土井から市瀬にバトンタッチ……
僕の場合、一年生の頃は南信大会の予選でも、最後方を走っていました。ところが、身近な先輩方に強い練習相手がいてくれたお陰で、全国の舞台にまで進むことができました。先生達にもハッパをかけてもらったり、周りの人達にすべて影響を受けましたが、練習は勝手我流で、皆に迷惑かけてばっかりでした。反省点の改善が、今後の最重要課題です。

（土井研吾・市瀬重明）

全国高校総会文化祭 放送部門に出場

八月七日・八日に新潟県で全国高校総合文化祭が開催されました。私はその中で、弥彦村で行われた放送部門に出場しました。
新潟県へ入った時から高校総合文化祭の看板をあちこちで見かけ、文化祭に対する意気込みを感じました。弥彦村へついた時にも駅の周辺に沢山の高校生がいて、「全国の高校生が集まっているんだ」と改めて感じました。
一口に放送部門といっても、実はこの下に4つの部門に分かれています。まずビデオ部門です。各高校がいろんなテーマで作成した4～5分のビデオを発表しました。各県ごとに特色のある作品ばかりで、特に関西方面の高校は、一月十七日に起こった阪神大震災の様子をまとめたものが多く、半壊した学校やひび割れた道路など、リアルな映像が沢山使われていました。
それからオーディオピクチャー部門。これはスライドに合わせて音やアナウンスを入れる割と新しい部門です。これもビデオ部門と同様に、各県ごとユニークな作品が多く、見ていてとても楽しかったです。
そして朗読部門。毎年自分の県にゆかりのある作家の作品が課題となります。しかもこの大会では朗読にあわせて効果音もついていました。
最後に、私の出場したアナウンス部門です。郷土ゆかりの話題を自分で原稿にしてそれを発表します。私は毎年南信で結成されている合唱団南信リーダーズコールについて発表しました。少し緊張しましたが満足のいく発表ができました。
三年間の放送活動のしめくくりとしてこのような大きな大会に出場でき、とても勉強になり良かったです。

（松永綾子）

全国高等学校総合文化祭参加

邦楽班

私達邦楽班は、八月六・七日に新潟県新潟市で行われた全国高等学校総合文化祭日本音楽の部に出場しました。先に行われた県邦楽合同発表会では初めて最優秀校に選ばれ、班員一同それをバネに全国に向けて頑張って練習を重ねてきました。しかし、実際に全国はとても高レベルで私達はまだまだ練習不足の点が多くあったと思います。けれど、全国大会を経験し、他校の素晴らしい演奏を聞けたことで、今後の班活動に良い刺激を与えられたと思います。そしてその結果を皆さんに聞いてもらえたらと思います。三年生は、最後の発表でしたが、琴を通してたくさんの友だちもでき充実した班活動が送れました。これも仲村先生、丸山先生の御指導のおかげです。たくさん迷惑もかけましたが、本当にありがとうございました。

（春日麻衣）

全国高総文祭で演奏する邦楽班

ギター班 全国大会で大阪へ

私たちギター班は、全国大会に向けて、日々練習してきました。今年は楽器の種類も増え、音に幅ができ、曲が要求する音に、より近づくことができました。練習では、今までの技術講習会や大会の講評などで学んだ「音の作り方」「表現の仕方」などを参考に、どこをどうすればよいか互いに指摘し合い、一曲一曲仕上げていきました。また、ステージに慣れるよう、できるだけ多くの大会にも参加し、全国大会当日は、それまでの練習の全てを出し演奏することができました。さすが全国大会だけあり、他校の演奏はすばらしく、とても勉強になりました。
全国大会は、今年初出場でしたが、皆で協力し演奏してくることができ、よい経験になりました。

（丸山直昭）

将棋班全国大会へ出場する

去る一月三十、三十一の両日に神奈川県の読売ランドにて高文連の将棋全国大会の新人戦が行われ、僕も県代表ということで出させていただきました。僕は当初から、高校生活のうちで一度ぐらいは全国大会へ出場してみたいという気持ちがあったので、一年にしてその夢がかなったのは非常に光栄に思いました。
大会前日に受けつけと組み合わせの抽選会が行われ、そこで対戦相手も決まりました。この時は確か、阪神大震災の直後で関西や九州地方の代表の人達は交通が不便で大変だったようです。
トーナメントなので一回負ければ終わりという厳しい条件のもと対局は開始されました。僕の一回戦の対局相手は、香川県の人でしたが、僕と、もう一人の長野県代表者の対局者も香川県人だと知って吃驚しました。持ち時間は各四十分でそれを切ると三十秒の秒読みに入ります。持ち時間四十分というと非常に長く思われるかもしれませんが、実際対局に入ると四十分程度はあっという間に過ぎてしまいます。だから時間の使い方というものが非常に大事になってきます。
さて一回戦は矢倉戦になりました。序盤はあまりいいとは思えませんでしたが、中盤相手にちょっとしたミスが出て優勢になりました。結局そのまま押し切り、終わって多少問題はありましたが、勝てたことは、素直に喜びました。
二回戦は組み合わせの都合上シードになり、一気にこの将棋は中盤まで、まったく互角のすばらしい将棋になりましたが、途中失着が出て自ら勝ちを逸してしまいました。結果は残念でしたが、全国大会の雰囲気を味わうことができたことは、満足できました。最後に、出場に協力して下さった小林先生及び諸先生方に感謝したい。

（石田 崇）

全員参加の高松祭

林 康弘

我々高松祭総務は、「全員参加の高松祭を創りあげよう」ということを基本理念にして各活動に取り組んできました。具体的なこととしては、全員参加の象徴として会員全員の手型でシンボルマークを描きました。また例年会員の意識が低下しつつある文化班の展示などを再復興させるため展示の仕方を工夫して充実を図りました。これらのことを中心としてテーマである「かわらなきゃ」の達成を会員の協力もあって成し遂げられました。
僕はこの高松祭で自分一人だけでは無力であり、成功のかぎは会員の協力であるということを、あたり前ではありますがよく知ることができました。
最後に、これからも末永くこの「全員参加の高松祭」の灯を絶やさないでいてほしいと思います。

野球班全員野球でベスト16へ

最後の打者の打球が、ライトのグラブにすいこまれた時、優勝候補信工を破るとともに、ずっと追い求めていた本当の意味での「全員野球」を僕たちはつかみました。
選手とベンチが一体となり、投手は野手を、野手は投手を信じて全員で守る。
スタンドからきこえる仲間の声や、お世話になった方々の期待に答えるべく打ち、走り、精一杯プレーをする。それが僕たちの全員野球でした。
奪三振ゼロでもエラーゼロで信工に勝てたという事が、全員野球の結果を示してくれています。
飯高生として野球に対する姿勢を教えて下さった監督さん、野球のできる環境を作って下さった同窓会、OB会、先生方の皆様に心から感謝しています。信じ合える仲間と巡り合い、大きな声援の下で野球ができ、本当に幸せでした。

〈秋季北信越南信大会〉
飯田　6－2　諏訪実
飯田　18－2　高遠
辰野　8－7　飯田　ベスト一六
〈春季北信越南信大会〉
長姫　9－5　飯田
〈第七七回全国高校野球長野大会〉
飯田　6－4　長野吉田
飯田　3－0　信州工業
飯田　3－2　上伊那農
松本工　7－5　飯田　ベスト一六

（伊藤宏一）

卒業生進路状況

平成６年度の大学入試の結果は、現役での進学率70.8%（前年度65.2%）であった。国公立大学ののべ合格者数が109名で、当面の目標としてきた100名を越えることができた。私立大学ののべ合格者数も284名と健闘した。進学先も充実した内容であったといえる。

昨今の景気動向から一時期の私立大学指向から国公立大学指向へはっきりと転換したこと、女子の四大指向から短大・専門学校進学者が減少したことが、この２・３年の特徴であり、この傾向は今後も続いていくと思われる。

大学名	現	卒	大学名	現	卒	大学名	現	卒	大学名	現	卒
国立大学			公立大学			大東文化	6	8	愛知	2	1
室蘭工業		1	高崎経済	1	1	拓殖	6	2	愛知学院	4	5
弘前		1	群馬県立女子	1		玉川	1	2	愛知工業	5	
山形	1	1	東京都立		2	多摩美術	1		金城学院	2	1
茨城	8	1	横浜市立	2		中央	6	1	中京	6	1
筑波	4	2	都留文科	6		津田塾	1		中部	1	
宇都宮		1	長野県看護	3		帝京	5	4	名古屋外国語	1	
群馬		1	岐阜薬科		1	東海	1	7	名古屋学院		1
埼玉	10	1	静岡県立	2		東京医科		2	名古屋経済	2	1
千葉	3	3	名古屋市立	1		東京家政	3		名古屋女子	2	
お茶の水	1		国立大学合計	16	4	東京経済	2	2	南山	4	
電気通信	3	1	私立大学			東京工科	1	1	日本福祉	8	2
東京	4		常盤	1	1	東京女子	1		名城	4	4
東京外国語	2		流通経済	1		東京女子体育	1		京都外国語	1	
東京学芸	1		駿河台	1	2	東京造形	1		京都産業	2	
東京工業	1	3	獨協	9	1	東京電気	3	1	京都薬科	1	
東京商船		1	文教	10	1	東京農業	1	8	同志社	3	2
東京農工	5		淑徳	2		東京理科	7	13	立命館	7	9
一橋		1	千葉工業	2	2	東邦	2	1	龍谷	2	
横浜国立	3		千葉商科	1		東洋	7	8	大阪学院	1	
新潟	5	4	亜細亜	2	2	日本	8	20	大阪産業		1
富山	3	1	青山学院	5	8	日本女子	2		大阪体育	1	
富山医科薬科	1		大妻女子	1		法政	4	13	関西	2	3
金沢	2	3	桜美林		4	武蔵	1	1	関西外国語	3	
福井	2		学習院	3	1	武蔵工業	1	4	近畿	5	4
山梨	3	3	北里	2	2	武蔵野美術	1		甲南	1	1
信州	14	6	共立女子		1	明治	2	9	神戸学院		3
静岡	4	3	国立音楽	1		明治学院	3	4	奈良	1	2
愛知教育		1	慶應義塾	5	9	明治薬科	1	1	岡山理科	1	
名古屋	1	1	工学院	3	1	立教	3	3	その他私立大学	36	39
名古屋工業	2		國學院	2	3	立正	1	4	私立大学合計	286	279
岐阜	1		国際基督教		1	早稲田	4	8	短大		
滋賀	1		国士舘	3		神奈川工科	1	2	国公立短大	22	2
京都	3	3	駒澤	5	8	神奈川	7	4	私立短大	30	5
大阪外国語	1		実践女子	2		関東学院	2	3	合計	52	7
神戸商船	1		芝浦工業	2	4	昭和音楽	1		専門学校		
和歌山	1		上智		1	鶴見	1		看護専門学校	6	1
鳥取		1	昭和	1		東京工芸	1		その他専門学校	19	1
広島		1	昭和薬科	1		横浜商科		1	合計	25	2
高知	1	1	成蹊	2	1	金沢工業	1		就職		
九州工業	1		成城	1		山梨学院	4		県内	2	
宮崎薬科		1	専修	5	3	聖徳岐阜教育		3	県外	1	
国立大学合計	93	47	創価		1	静岡理工科		2	合計	3	

新しい名簿発行
予約注文をお忘れなく

名簿の発行については当初、十年毎に発行するよう決まっていたが、各支部の総会や本年の総会で五年毎に発行してほしい意見や要望が続出した。

そこで平成七年度総会で、長坂会長提案の形で五年毎に出すことが決定された。それを受け同窓会報編集委員会が中心となり、本年から三浦宏副会長が参画して、平成八年度発行を目指して準備に入った。

会員名簿の体裁については目下検討中であるが、現在のものより約七十ページは多くなる見込みで、八百ページを予定している。B5版でレザック上質紙仕上げとする。

また、先きの活性化委員会の提案どおり、今回から、希望者を対象として、有料三五〇〇円（送料共）として、部数三千部、印刷所は「南信州新聞社」を予定している。

情報度高い名簿を

会員の多くの要望に答えるよう、より正確な名簿を作成するために、作成委員会は、綿密な計画によって、可能な限りの手立てをとるよう、編集の準備を行っている。

現在、名簿の基本となる資料は、会員各人から寄せられる毎年の住所等確認票によって、コンピューターに入力されている資料である。現行の名簿（平成二年度版）以降の連絡による住所等の変動は、総てコンピューターに入力されているが、その後変動のない方については、二年版のものと同じになる。従って、この封書の宛て先や項目の内容の異なる方は、ぜひとも同封の「住所等確認票」を提出していただくよう、委員会では要望している。

情報の速やかな提供を

名簿のいっそうの正確を期すためには、本人の正しい申告はもとより、支部会員、同期生等の動静にに関する情報に負うところが多い。そのために、直接または支部、卒回数幹事の方々を通して事務局へ寄せていただくと共に、編集の最終段階において、支部、卒業回数幹事の方々には、確認の作業のお手数をかけることになるので、今からお願いしたいとしている。

申込みは指定の振替用紙で

平成八年度発行される新名簿購入希望の方は、同封の「振替用紙」、「維持会費用」あるいは先きの本館改築記念事業の「寄附用」との間違いや、混用等のないように注意していただき、より多くの会員の購入を願っている。

申込み締切りは平成八年一月三十一日。

寄贈品の紹介

同窓会へ今回寄贈された書籍等は次の通りです。（ ）内は寄贈していただいた方です。（敬称略）

「二三会—25周年記念」（高22回生）

「知りたかった繊維の話」（高3日下部晴彦）

「喜寿いろは帖」（中35長沼静人）

「菁莪（せいが）」3号から6号まで（中41回生）

後藤武巳事務局長急逝される

平成五年四月より本同窓会事務局長を勤めておられた、後藤武巳先生（中46回）が去る二月二十四日急逝されました。

先生は母校の数学教師として十三年間、お勤めされたあと、同窓会事務局長として、業務に携わっておられました。

平常の会費の納入、住所変更の処理等の仕事の他に、本館改築記念事業の寄附金の受入れ業務など、煩雑で多忙を極める仕事を担当されて来られました。先生のおだやかな人格と、熱心で緻密な仕事ぶりは、関係の多くの方々に高く評価され、急逝が惜しまれています。

ここに先生への感謝をこめて慎んでご冥福をお祈りいたします。

会員訃報

ご冥福をお祈りします。（敬称略）

中16神谷　芳郎　2・1・13
（樋原）
中17小林　治穂　6・12・3
中17後沢　信吾　59・1・21
中18原　祐三　6・3・24
中20井坪　定雄　51・12・11
中20小野　惣平　4・2・5
中20清水　浩　7・6・25
中22北原　欽次　7・8・8
中22外松　益男　7・4・9
中22牧島　貞一　61・10・4
中23小原　清　5・6・21
（小池）
中23田中　三郎　6・9・4
中24林　甚平　3・2・19
（木下）
中24松村　頼夫　6・12・23
中24宮内　直人　60・4・1
中24山田　昇一　6・2・13
（小林）
中25新井　芳實　5・11・8
中25島岡　裕夫　6・11・16
中25増田　学男　7・5・1
中26市瀬　麟三　7・2・22
（中島）
中26宮脇　鶴　7・8・31
中27羽生　好晴　6・9・30
中27三尾　忠志　5・9・29
中27古川　芳穂　6・11・5
中27吉沢　道雄　5・7・2
中28北原　公祐　6・11・4
中28倉田　吾郎　6・4・26
中28成瀬　正人　7・4・10
中28古島　敏雄　7・8・29
中29加藤　良一　5・6・30
中29川手　汲一　6・11・22
中29木下　洋　7・4・2
中30太田眞佐夫　6・12・7
中30篠田　茂　6・10・12
中32井深　玄三　7・1・12
中32座光寺拓治　6・12・30
中32小林　厳　7・5・2
中32塩倉　正弘　6・2・26
中33成瀬　章　6・8・17
中33原田　達夫　7・1・9
中35亀井　恒彦　4・11・15
中35小池　祥夫　6・7・26
中35杉山　利彦　6・5・16
中37浦野　周　6・10・22
中37本島　健次　6・12・18
中37山中　邦夫　7・4・24
（沢柳）
中37渡会　末彦　6・6・27
中38斉藤　隆久　6・2・10
中38福与　龍夫　6・3・18
中41今村　金作　6・9・8
中41中島　康次　5・3・17
中41中野　正志　6・10・26
中43北原　久　5・10・24
中43塚原　美明　5・9・29
中45関口　実　6・12・31
中45原　保茂　7・8・19
中46後藤　武己　7・2・24
中46竹村　卓也　7・4・6
中46畑谷　智雄　6・12・11
中46御堂島　央　3・4・9
中47村沢　文夫　6・4・4
中47百瀬　健彦　7・6・19
（乾）
高2木下修一郎　7・1・10
高2宮坂喜和子　5・12・27
（村瀬）
高3北村　昭夫　6・9・28
高3福元　徇　5・12・7
高4熊谷　守幸　6・6・12
高4源　法麿　7・4・10
高4山野井和夫　7・7・1
（佐々木）
高5今井　貞男　5・2・23
高5原　文子　7・8・16
（小副川）
高9岩田　基　5・12・17
高10熊谷　安人　6・11・2
高12林　啓二　4・3・3
高12松岡　光男　63・4・5
高14竹村　鉱平　5・2・19
高21杉山　隆造　5・11・5
高24宮島　尚司　57・3・7

編集委員

同窓会より
酒井　寛（中47）
平澤　秀明（高4）
上松　公平（高4）
矢澤　昇（高19）

飯田高校同窓会編集委員の皆さん
（酒井・後藤 氏欠席）

校内より
後藤　拓磨（高25）
中田　學（高5）
下平　勉（高22）
池野　光政（高23）
木下　正明（高25）
田中　雅孝（高28）

事務局だより

事務局ではOA化が進み、女性非常勤職員も配置されて、会員の皆様の名簿や会費納入の手続きも、迅速な処理ができるようになってきました。

★会費納入について

会費納入は平成七年度分です。未納の方は平成四年度分からお願いします。

★終身会員を希望する方

終身会員費は年千円で八十歳までの計算になります。会費の計算は次の通りです。

（80－年度の年齢）×1、000円

ただし、現在までの会費未納の方は、平成四・五・六年度分の三、六〇〇円を加えて下さい。なお、振込用紙の備考欄に「終身会員希望」と明記して下さい。

お詫びと訂正

前号の高19後藤喜美恵さんは、田中喜美恵さんのことで、現在更埴市で二児の母として元気いっぱい活躍中です。深くお詫びをして、訂正させていただきます。

編集後記

同窓会報三十五号をお届けします。各自仕事を持ちながらの編集会議を六回ほど開き、原稿を直したり切ったりしながらの作業です。

本紙をご覧のように、同窓会名簿も私たちが担当するようになりました。ぜひ早めにお申込み下さい。訂正なども早めに。